

文化財



実相院仁王門



川上温泉浴場

館敷地内に四百五十メートルの掘さくをし、含土類重曹泉として浴用に豊富な泉源を得、各旅館に給すると共に、昭和四十五年四月一日から中央公民館東側に町営の温泉浴場を開設した。

5 主な産物・名物

密柑は「佐賀密柑」として全国的に知られ、松梅の干柿^{ほしがき}、茄子、名尾紙等県外にも親しまれている。その他ぶどう、桃もとれ、川上川流域では川魚やわらび・ぜんまい等の山菜料理が行楽客を楽しませている。

6 釣場その他

川上川の頭首工より上流に若鮎^{あひ}を放流しており、又はや釣りは至る所でできる。投網もよく、更に上流に進むとやまめも住んでいる。川上川一帯は夏期は水泳、キャンプ等に適し貸ボートもある。

文化財について

私達の郷土大和町は歴史篇で述べたように、縄文・弥生^{じようもん}・古代の遺物を初め、古墳時代の副葬品も多数出土している。国府の所在地として、また古寺・古社も多く、有形無形の文化的遺産に恵まれているのである。私達が普段何げなく歩いている路傍にも、よく注意してみれば古い年代が刻まれている石仏や石神が建っている。これらの文化的遺産は、遠い遠い昔から郷土の歴史の中にあつて、長い間の祖先のもろもろの営みを、無言のうちに物語り、呼びかけてくれるものである。

しかし、あるものは残され、あるものは無名のまま捨て去られ忘れ去られている。そして又開発という名のもとに一たまりもなく破壊されてしまうものもある。天山々系南麓にあつた数百の古墳も今は数えるほどしか残っていない。今、これだけの古墳がそのまま保存されていたら………と思つても、もうどうしようもないことである。

最近、国としても自然や文化財を重視し、その保護対策に本腰を入れ始めた。文化財はその保護の立場からも、あるいは生活の推移や信仰形態の変遷や文化の発展を知るうえからも大切であり、祖先から伝えられ受け継いだ私達はまた私達の子孫に伝える義務と責任を感じるものである。

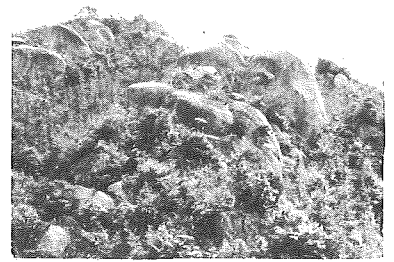
ここでは町内にある文化財と思われるものを、できるだけ多く探して拾い上げてみることにした。しかし文化財も、人の目に触れる場所にあるものは比較的とりあげ易いが、建物の奥深く蔵されているものや、地下に眠っているものにはなかなか手が出せないものである。

町内にもまだまだ貴重な文化財が簞司や長持の奥深く眠っているかも知れない。あるいは地下に隠れているかもしれない。それは今後の調査に待つしかないが、改めて自分の身辺を見直したり、捨てる、壊す、焼く前に今一度首をかしげてみる事が大切ではないだろうか。

一、史 跡

当町は史跡に富んでいるが、それについてはすでに歴史篇で詳述しているので、ここでは歴史篇で記録していないものについて述べることにし、ただ史跡をあげてその所在地とその歴史篇の關係頁をあげることに止めておく。

- 1、小隈山古墳 小隈 六五
- 2、男女神社東方古墳群 今山 七一
- 3、男女神社西古墳 今山 六五
- 4、西野古墳 西野 六六
- 5、道善寺古墳 池上 六六
- 6、風樂寺古墳 池上 六六
- 7、十三塚古墳 水上一帯 七〇



石 神 群

- 8、船塚 今山 六五
- 9、築山古墳 尼寺 六四
- 10、久留間カミ塚弥生遺跡 久留間 三六
- 11、国府跡 久池井一帯 八六
- 12、印鑰社 尼寺、五領 九二
- 13、神南備神社 春日 九四
- 14、河上神社（淀姫神社） 川上 九八
- 15、石神群 下田

三反田線下田バス停で下車、東方の山頂に向かって行くこと約四キロ、そこは川上川の清流を眼下に見る景勝の地で、奇岩巨石が下田山全部に散在している。これらを石神群と呼んでいる。青嵐の山腹に磨かれたような巨石がそそり立ち、古代の民族が信仰の対象としていた遺跡を見ることが出来る。

千早振る神代ながらの御霊石

天そそり立つ姿雄々しも

ふりし世の巨石文化の跡問へば

苔のみむして岩は語らず